



車いす利用者の心のバリアフリーを実現し、緊急時に避難するという選択肢を提供する
 着脱式 車いす けん引装置 **JINRIKI® QUICK3活用のご提案**



meitetsu
 名鉄百貨店

車いすの走破性

コンディション	使用状況	走破性	評価
舗装路	一般舗装路	○	一般舗装路においては問題なし。
段差	一般舗装路等における段差	△	車いすでも段差が小さければ問題ないが、大きな段差や、利用者の体重が重い・操作者が女性や子供等の弱者の場合などは、段差を越えられない。
砂利道	砂利道、デコボコ道、山道等、砂地などの未舗装路、不整地	×	舗装路に近い場所を除き、ほぼ走行不可能。
未舗装路		△	未舗装でも凹凸がない平地であれば可能。
急な坂道	急な登り坂道（舗装路含む）	×	ほぼ走行不可能。 走行には屈強な補助者が必要。
雪道	圧雪路、新雪、深雪、ゲレンデ等	×	積雪地帯では日常的な使用すら困難。
増水時	水たまり、内水等水害時	△	一般舗装路で路面の見える水深と透明度の場合使用可能であるが、それ以外は前輪のつまづき等があり、危険を伴う。

○：走行可能 △：一部または操作方法により一部走行可能 ×：走行不能

完璧なバリアフリー化には限界がある

- 車いすは、舗装道路での使用が前提であり、日常でも少しの段差や砂利道などの悪路では移動が困難。
- 地震や水害などの災害時には、障がい者や要介護者が避難を諦めたり、避難に間に合わない事例が発生している。
- 観光地や各種施設の大掛かりなバリアフリー化は、費用面や環境保護の観点から進みづらい。



【参考】車いす販売・保有の現状

- 国内販売台数：約50万台/年
- 推定保有台数：約700万台

- 課題解決のため、『着脱式』車いすけん引式装置「JINRIKI®QUICK3」（以後JINRIKI®と表記）を開発。
- 車いすユーザーにとって、「JINRIKI®」の使用により、
 - ① 視野や行動範囲を広げ、介助者の負担を減らし、ユーザー・介助者の“心のバリアフリー”を実現。
 - ② 災害時に避難を諦めていた“避難するという選択肢”が増える。
 - ③ 最小限のバリアフリー化でも、行きたかった観光地を訪問できる可能性が高まる。（選択肢が増える）

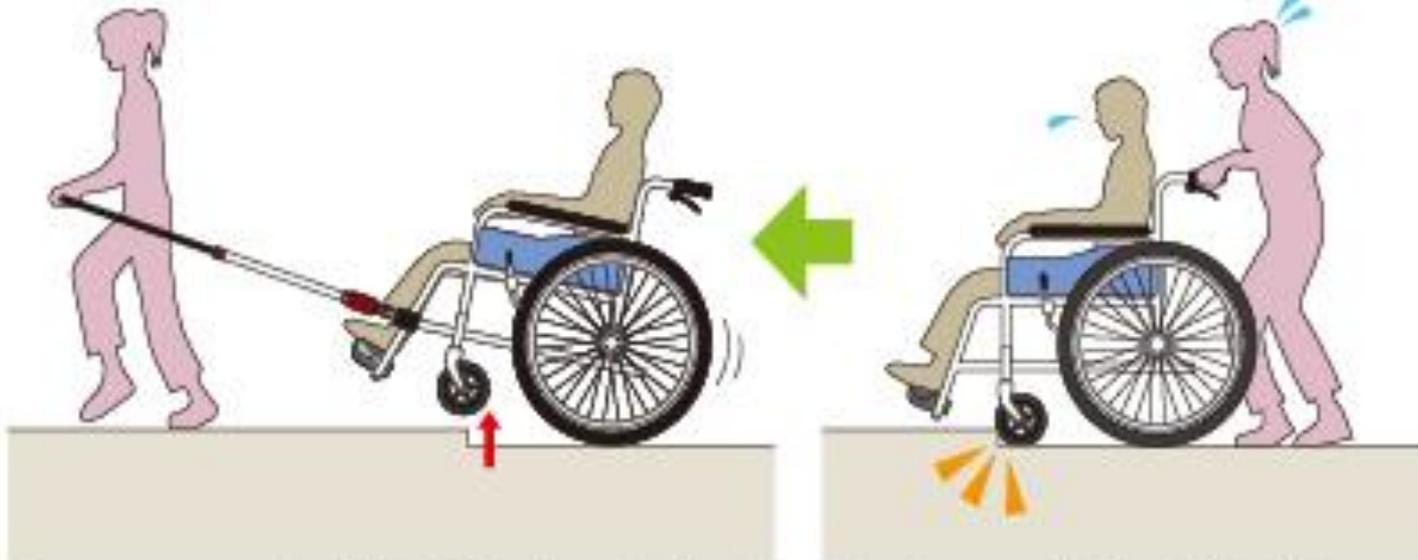
浮かせて引く という新しい発想。

— 世界初の『着脱式』車椅子けん引装置 —
 普段の車いすが

『押す車椅子から、引くことで移動がスムーズ』な車いすへ

「JINRIKI®」は車いすにけん引レバーを装着し、人力車のように「前輪を浮かせて引く」ための装置です。坂道・段差・がれき・降雪等の不整地で車いすを「押して」移動するにはかなりの労力が必要ですが、「JINRIKI®」なら、テコの原理で体重と体全体の力を利用することで、負担が軽くなりスムーズな移動が可能になります。

非常時の緊急避難やアウトドアでも活躍、より安心で、心豊かな暮らしをサポートします。



「テコの原理」で楽に前輪が浮き、車いすを前から「引っぱる」ので簡単に段差を通過できる。

たった1cmの段差でも移動が難しい。

車いす利用者の日常的な外出で、長い距離や、坂道、舗装されていない場所での介助者の負担はかなりのものです。

介助者の負担を大幅に削減することで、車いす利用者が気軽に外出の介助を頼みやすくなり、結果的に行動範囲が広がり、日常生活の質向上に繋がります。

特に、積雪時や不整地を通る外出では大きな効果を発揮します。

【日常生活用具給付制度について】

埼玉県鴻巣市、長野県山ノ内町などでは、JINRIKI®を「日常生活用具(移動・移乗支援用具)給付制度」の補助対象として受理した実績がございます。

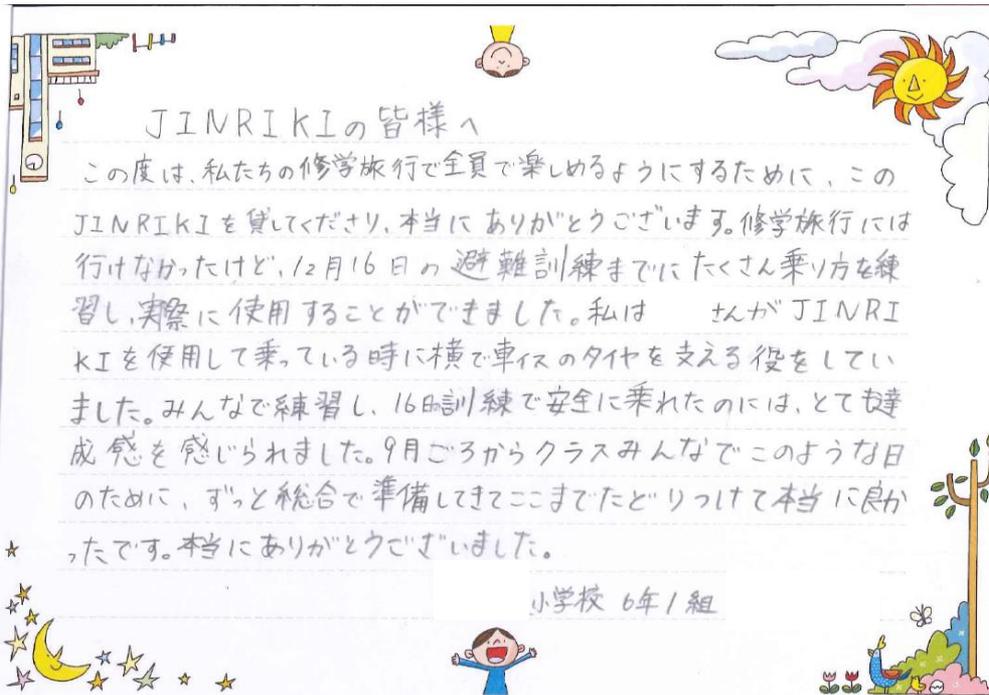
申請の流れは、市町村福祉担当に補助申請⇒担当者による必要性の確認・検討⇒必要性の認定⇒補助の確定 となります。



小中学校で差別解消の取り組みとして 「JINRIKI」が活用されています

車いす利用児童が、遠足や修学旅行の際にクラスの仲間と一緒に参加できないという課題解決のために「JINRIKI」が活用されました。

神奈川県や愛知県の小学校で遠足や修学旅行に車いす利用児童と一緒に参加できるように、クラス全員で「JINRIKI」を使ってサポートするなどの取り組み事例が報告されています。



車いす利用のクラスメイトと一緒に修学旅行に行きたいからと「JINRIKI」貸し出しの要望があり、デモ機の貸し出しに応じました。

修学旅行はコロナで中止となりましたが、心温まるお礼の手紙をクラス全員からいただきました。

(左は、お手紙から一部を抜粋)

災害時の避難困難者

災害時の**避難困難者**

(要介護、障がい者、妊婦、幼児、病人等、要配慮者)

介助者や家族が、避難時の介助のために
巻き添えになる場合も…

人口の**最大3割が**
避難できない・あきらめている

様々な路面の状況

坂道、階段、段差、雪、砂利道、砂浜、
路上障害物、豪雨、土砂、汚泥、火山灰、
瓦礫、倒木、倒壊、地割れ等

要配慮者（車いす、視覚障害）の移動は難しい

要配慮者【災害時】

高齢者3186万人（要介護・要支援認定者600万人痴呆症462万人他）

障がい者467万人（身体障害者、視覚障害者、知的障害者）

妊婦、ケガ・病人、小学生低学年以下小さな子供

早い避難は最大の防災対策！



直近の使用事例：2021年10月
和歌山水道橋崩落断水時の給水車から各家庭への飲料水の運搬に利用

【個別避難計画における現状】

「災害対策基本法」が改正・施行され、「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針」の改定・公表を受けて、市町村が優先度が高いと判断する避難行動要支援者について、概ね5年程度で個別避難計画の作成に取り組んでいただきたいことや個別避難計画の作成手順などが示された。（令和4年版 防災白書より）

これに伴い、各市区町村で個別避難計画作成に取り組んでいるが、車いす利用者をはじめ関係者からは、実際に災害が起きた場合に、事前に定めた避難場所への移動が計画通りにできるかを不安視する声もある。

【水防法における現状】

近年、豪雨や大型台風による甚大な災害が発生しており、今後も気候変動による風水害のさらなる頻発化・激甚化が懸念されている。国土交通省は、災害時に避難が困難とされる要配慮者が利用する施設について、市町村を通じて、避難計画の策定及びそれに基づく避難訓練の実施と実施報告を義務付けている。

平成29年、令和3年に水防法及び土砂災害防止法が改正され、要配慮者が利用する施設の所有者または管理者について、洪水時等の防災体制や訓練に関する事項を定めた「避難確保計画」を作成し、各市町村長に届け出ることが義務づけられ、併せて、避難確保計画に基づいた避難訓練を、最低年1回実施すること、避難訓練を実施した場合、その結果を市町村長に報告することが義務化された。

各要配慮者利用施設では、避難計画を策定、避難訓練を実施しているが停電時の車いす利用者の縦方向への移動や、施設外の安全な場所への移動に対して現状の計画で対応できるか、不安視する声もある。

【参考】

あるアンケートでは、事前避難の実効性を高めるための課題として上位に挙がっていた項目は、「住民の理解や防災意識の向上」「事前避難所の確保」と合わせて、「**要配慮者への対応**」「**避難先への移動手段の確保**」が続いた。

【JINRIKIの活用提案】

車いすけん引装置「JINRIKI」を避難計画策定や避難訓練実施に活用していただくことで、実効性の高い計画の策定及び訓練の実施、実際の災害時に人的被害を最小限に抑える一助になると考えております。

先ずは、弊社担当者までお問い合わせ賜りますよう、ご案内申し上げます。

観光(ユニバーサルツーリズム)活用事例

観光地におけるJINRIKI導入事例

パラリンピック・スキー選手団
鳥取砂丘
上高地
世界遺産「平泉」
京都市営観光案内所
ムーミンバレーパーク
札幌雪祭り
兼六園
山梨神明の花火
カナダアウトドアフィールド
ハワイオアフ島 他多数



ハワイJINRIKIレンタル

京都市営観光案内所・清水寺



補助器具を取り付け、人力車のように進む車いす(東山区・清水坂)

車いすの利用者に夜の京都観光を楽しんでもらいたい。「京都・東山花灯路」を開催中の推進協議会が、障害のある人や高齢者を招待し、車いす10人引式の補助装置を取り付けて人力車のように進む観光ツアーを初めて企画した。ライトアップされた清水寺(京都市東山区)を訪れた参加者は「こんなにきれいだったとは」と感激していた。

ツアーには、車いすに取り付ける補助装置を開発、販売する会社「JINRIKI」(長野県)が協力した。前輪を持ち上げた状態で引き、後ろから押すこともできるため、坂道や段差をスムーズに移動できるという。



藤沢市 江の島強力（ごうりき）プロジェクト

- NPO法人湘南ウォーターセーフティー協会が藤沢市との共同事業として取り組んでいます。
- 400段の階段がある江の島の頂上には、車いす利用者は到達することができませんでしたが、かつて登山などで荷物持ちとして活躍した「強力」にちなんで「強力プロジェクト」を発案。「JINRIKI」を活用し、車いす利用者とチームで江の島の頂上を目指します。
- 平常時には、観光の取り組みとして、災害時には緊急避難の取り組みとして位置付けています。
- NPOとして人が車いす利用者を運ぶ仕組みを発案。「あきらめていた」人たちと共に楽しく挑戦を続けています。



長野県でのユニバーサルツーリズム事例

信州ユニバーサルツーリズム（UT）の特徴

- ・自然豊かな信州のフィールド(山岳高原観光地)において、障がいの有無に関わらず誰でも楽しめる環境を整備(信州UT)
- ・産学官の連携により、専門人材の育成、専門機器の導入、地域毎に特色あるコースを造成→ユニバーサルツーリズムの先進地に！！

【人材】

○ユニバーサルコンシェルジュや、インクルーシブ野外活動指導員など専門的な受入人材

【機器】

○車いすけん引装置、アウトドア用車いす、着座型スキーなど専門機器の充実

【地域】

○地域の特徴を生かした多彩なユニバーサルフィールド

専門人材・専用機器・多様なコースの整備による
受入環境の充実

2023年度には、県内観光事業者が車いすけん引装置を購入する際の半額補助を決定

JINRIKIをスポーツイベントの医療対応に活用

福岡マラソン

2014年から毎年11月に福岡市と糸島市で開催される市民参加型のマラソン大会。マラソン、車いす競技、ファンラン合わせて14,000名が参加する。主催は、一般財団法人福岡陸上競技協会、福岡市、糸島市

JINRIKIの活用

安心安全な大会運営のため、医療救護関連業務ボランティアを募り、医療・介護系専門学校の学生等が参加。

体調不良や足が痙攣するなどコース上で走ることができなくなったランナーをコース外や救護所へ搬送するため、一定間隔で「JINRIKI」を装着した車いすを配備し、1大会あたり10回程度出動しているとのこと。

運営担当者は、素早く、長い距離でも少人数のボランティアで搬送でき、福岡マラソン実行委員会では、今後も継続使用していくとのこと。



対処可能な関連法律・基準

障害者差別解消法

学校教育法（障害者差別解消法に準拠）

災害対策基本法

（災害時における円滑かつ迅速な避難の確保）

（個別避難計画の作成）

（水防法等に基づいた避難確保計画の作成）

自然公園法（旧国立公園法）

世界遺産登録基準（自然公園法に準拠）

これまで進まなかった要因

多額な財源・資金が必要

対応する手段・方法がない

前例がない

環境保護優先…など

**JINRIKIが
問題解決の
きっかけに！**

**JINRIKIは障がい者や高齢者への差別をなくし、
命を守り、環境を守り、法律を守るためのツールです。**

国の取り組み



株式会社JINRIKI代表取締役社長を交えた車椅子を軽々と動かす谷垣首相一歩隊

「押す」から「引く」へ 車椅子の新しい補助器具

「このJINRIKIを商品化したように思ったきっかけは、東日本大震災。あの震災では高齢者や障害者、認知症の方、妊婦さんなど、たくさんの方が走って逃げられなかった。その方々を少しでも救えなかつたという思いで、私は脱サラして起業した」と開発への思いを述べ、また、「開発への思いを述べ、また、利便性を紹介し、途上国からの問い合わせも多い」と説明。最後に「車椅子で生活している障害者や高齢者の方々は普段、出かけるの機会を我慢することが多い。しかし、このJINRIKIを使えば、皆さと同じように動けるようになる。この車椅子補助器具を一人でも多くの方に知っていただきたい」と呼び掛けました。

「このJINRIKIを商品化したように思ったきっかけは、東日本大震災。あの震災では高齢者や障害者、認知症の方、妊婦さんなど、たくさんの方が走って逃げられなかった。その方々を少しでも救えなかつたという思いで、私は脱サラして起業した」と開発への思いを述べ、また、「開発への思いを述べ、また、利便性を紹介し、途上国からの問い合わせも多い」と説明。最後に「車椅子で生活している障害者や高齢者の方々は普段、出かけるの機会を我慢することが多い。しかし、このJINRIKIを使えば、皆さと同じように動けるようになる。この車椅子補助器具を一人でも多くの方に知っていただきたい」と呼び掛けました。

「このJINRIKIを商品化したように思ったきっかけは、東日本大震災。あの震災では高齢者や障害者、認知症の方、妊婦さんなど、たくさんの方が走って逃げられなかった。その方々を少しでも救えなかつたという思いで、私は脱サラして起業した」と開発への思いを述べ、また、「開発への思いを述べ、また、利便性を紹介し、途上国からの問い合わせも多い」と説明。最後に「車椅子で生活している障害者や高齢者の方々は普段、出かけるの機会を我慢することが多い。しかし、このJINRIKIを使えば、皆さと同じように動けるようになる。この車椅子補助器具を一人でも多くの方に知っていただきたい」と呼び掛けました。

「このJINRIKIを商品化したように思ったきっかけは、東日本大震災。あの震災では高齢者や障害者、認知症の方、妊婦さんなど、たくさんの方が走って逃げられなかった。その方々を少しでも救えなかつたという思いで、私は脱サラして起業した」と開発への思いを述べ、また、「開発への思いを述べ、また、利便性を紹介し、途上国からの問い合わせも多い」と説明。最後に「車椅子で生活している障害者や高齢者の方々は普段、出かけるの機会を我慢することが多い。しかし、このJINRIKIを使えば、皆さと同じように動けるようになる。この車椅子補助器具を一人でも多くの方に知っていただきたい」と呼び掛けました。

026 避難困難者の命を守る、車いす補助装置を開発

開発主体	開発期間	開発対象	実施地域
株式会社 JINRIKI	8年	地震等	長野県ほか

株式会社 JINRIKI は、既存の車いすに装着するだけで、人力車になる補助装置を開発した。

1 取組の特徴（特色、はじめにきっかけ、狙い、工夫した点、活用した点）

車椅子の移動をよりスムーズにする補助装置を開発

株式会社 JINRIKI では、芝生や土の路面、砂利道や積雪時・砂浜等、今までは困難だった不整地での車椅子のスムーズな移動を可能にする車いす補助装置を開発し、その普及を行っている。

同社が開発した装置は車椅子に取り付ける牽引式レバー。車椅子の後輪の車軸を支点と考え、このレバーを取り付けた場合は後ろから押すときに比べ、より遠くから力を加えることになり、この原理により、比較的少ない力で前輪を浮かせることができる。これにより前輪が段差等に引っかかった際にも人力車のように持ち上げることができ、力が弱い人であってもスムーズに移動を補助することができ、不整地等での移動性も向上する。



この原理を利用して車椅子で段差を乗り越える

2 取組の平時における利活用の状況

避難訓練に加え、福祉遊園地や各種イベントで体験の機会を提供

- 同社では国や自治体が開催する避難訓練に参加し、体験利用等の機会を設けている。同時に、福祉遊園地や障がい者スポーツ関連イベント、福祉イベント、地域のお祭り等の機会においても体験会を開催し、同製品の使いやすさや利便性、いざという時の効果等について、理解を呼び取組んでいる。

平時の移動の円滑化にも貢献

- 車椅子ユーザーはバリアフリーが進んでいない観光地においても、同製品を使用することで、車椅子に乗りながら観光を楽しむことができる。これまでの鉄道会社や温泉、お祭り等で試用がなされた。一方、観光地は、大きな設備投資を要するとなりにバリアフリー化を実現でき、これまで訪れできなかった層を呼び込むというメリットを得られる。これは地方創生にもつながると同社の代表は期待する。また、車椅子ユーザーの視野や行動範囲が広がることは、メンタルヘルスの向上にもつながると考えられる。

3 現状の課題・今後の展開等

要支援者の避難訓練等への参加も重要

災害時において、車いすの利用者をはじめとする要配慮者だけでなく、その介助者も逃げ遅れてしまう恐れがあります。移動が困難であるという理由で避難を諦めて欲しくない、という思いで訓練を行いました。

また、また、災害現場においては、障がい者等の移動はもちろん、クワガタの搬送、水や缶詰等災害救助物資を輸送するアリアーの役割も果たします。

4 周囲の声

同製品を使用すると歩いた時の振動が弱く良い。逃げることも通常の3倍以上のスピードが出せる感覚がある。（製品使用者）

要配慮者でも避難を諦めて欲しくない

災害時において、車いすの利用者をはじめとする要配慮者だけでなく、その介助者も逃げ遅れてしまう恐れがあります。移動が困難であるという理由で避難を諦めて欲しくない、という思いで訓練を行いました。

また、また、災害現場においては、障がい者等の移動はもちろん、クワガタの搬送、水や缶詰等災害救助物資を輸送するアリアーの役割も果たします。



担当者名 要配慮者でも避難を諦めて欲しくない

同会社名 株式会社 JINRIKI 法人番号: 9100001025696
TEL: 050-5835-1000 FAX: 0265-39-8921 E-Mail: contact@jinriki.asia



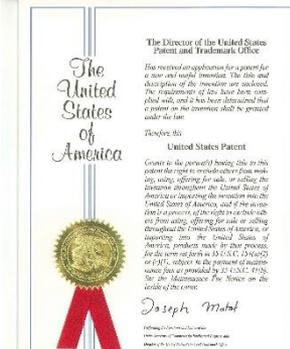
JINRIKIを体験 車椅子に乗った谷垣首相一歩隊をJINRIKIで引く、三原じゅん子女性委員長

↑ 自民党本部で JINRIKI勉強会開催

← 内閣官房国土強靱化 民間取組事例として掲載

国内外 関連特許を取得

- ・発明名称: 車椅子移動支援具
- ・特許・国際特許(PCT)
- ・日本国特許番号: 特許第5750704号
- ・意匠登録: 登録第1479684号
- ・商標登録: 登録第5563172号
- ・実用新案登録: 登録第3175832号
- ・米国、韓国、EP、中国でも特許取得



経済産業省 令和2年度産業標準化推進事業

戦略的国際標準化加速事業: 政府戦略分野に係る国際標準開発活動として

テーマ名: 車椅子牽引用レバーに関するJIS開発 として採択・委員会発足

導入実績 (販売店経由での導入もあるため、把握している一部)

北海道:初山別村、宮城県:仙台市、亶理町、新潟県:新潟市、上越市、妙高市、長野県:長野県、岡谷市、諏訪市、茅野市、松本市、飯田市、富士見町、下諏訪町、箕輪町、群馬県:伊勢崎市、栃木県:日光市、東京都:千代田区、杉並区、葛飾区、板橋区、江戸川区、大田区、渋谷区、八王子市、神奈川県:横浜市、厚木市、小田原市、大和市、藤沢市、鎌倉市、二宮町、千葉県:浦安市、船橋市、南房総市、埼玉県:さいたま市、川越市、蕨市、戸田市、坂戸市、鶴ヶ島市、静岡県:静岡県、小山町、愛知県:名古屋市、蒲郡市、新城市、豊橋市、長久手市、尾張旭市、稲沢市、田原市、幸田町、武豊町、岐阜県:岐阜市、中津川市、瑞浪市、飛騨市、美濃加茂市、三重県:三重県、熊野市、志摩市、亀山市、伊勢市、朝日町、東員町、南伊勢町、大阪府:大阪府、大阪市、堺市、泉佐野市、枚方市、奈良県:大和郡山市、石川県:小松市、福井県:福井市、越前市、兵庫県:高砂市、播磨町、広島県:東広島市、岡山県:岡山県、岡山市、島根県:島根県、徳島県:海陽町、高知県:須崎市、愛媛県:愛媛県、福岡県:福岡市、久留米市、小郡市、佐賀県:唐津市、長崎県:長崎県、熊本県:熊本市、大分県:大分市、佐伯市、杵築市、宮崎県:宮崎市、鹿児島県:鹿児島市、姶良市 ほか

※福祉協議会、自治会、消防団等の導入実績を含む

ウクライナ避難民に向けて「JINRIKI」を現地に寄贈する取り組みを実施

2022年4月、「避難が難しいウクライナの車いす利用者を救済」として、クラウドファンディングや募金による資金協力を募り約4千万円が集まった。この資金を活用して、5月と9月にJINRIKI開発者の中村氏が、隣国ポーランドへ渡航し195台を寄贈。2023年2月末には、340台を船便で出荷。6月にポーランドの拠点に到着し、その後、拠点からウクライナ国内の車いす利用者に届けられている。(2023年9月上旬に全台数を寄贈終了予定)



在ポーランド大使館にて、大使も実際に体験。今後の協力を申し出てください。



ウクライナからの避難民で構成される団体「フューチャー・フォー・ウクライナ」へ20台を寄贈。



「フューチャー・フォー・ウクライナ」がキーウの病院へJINRIKIを届け、使い方をレクチャー。

JINRIKI® QUICK3 (ジンリキクイック3)



装着はワンタッチ！公共施設・避難所など、省スペースでの備蓄が可能

(国内車椅子の90%に装着可能)

緊急避難時はもちろん 日常的な外出やアウトドアへの用途にも対応。

消防団・介護施設・観光地・公共交通機関などに備蓄しておけば車いす利用者を安全に介助できます。
※機種によってお取り付けができない場合があります。

●サイズ:

縮めた状態826mm 伸ばした状態1226mm

●重量: 3500g

●取付適応サイズ(車椅子幅)

300mm～480mm(パイプ芯寸法)

●材質: 取付バーを含む本体はSUSステンレス

一部鉄、その他の部分は樹脂部品

JINRIKI®QUICK3 販売価格

60,280円 (税込)



◀動画でご覧いただけます。

<https://youtu.be/ozHWKJkPvs>

JINRIKI® QUICK3_専用バッグ付

収納用 専用バッグ

Jinriki Quickの収納はもちろん
出かける際にデイバッグにもなるマルチバッグ。
更にハンズフリーでのけん引が可能です。



背負える
たっぷり収納の
デイバッグに



お出かけ時に簡単にデイバッグに早変わり。車いすを引きながらもラクに荷物を持ち運ぶ事ができます。



しまえる
未使用時は
すっきり収納



手提げやショルダーバッグに変形させ本体を収納。未使用時もかさばりません。また車いすのハンドルにかけて持ち運びが可能。



手が離せる
フック付きで
ハンズフリーに



リュック状態でフックにレバーをかければ、ハンズフリーでのけん引が可能。けん引者の腕の疲れがありません。

JINRIKI®QUICK3と 専用バッグのセットです

牽引者がリュックとして背負うことができます。

リュックを背負った状態で、内蔵フックを使用し、JINRIKIとジョイントすることができ、両手を離れたまま牽引ができます。

- サイズ：
幅270mm × 高さ100mm × 長さ900mm
- 重量：700g
- 材質：ポリ塩化ビニール

JINRIKI®QUICK3専用バッグ付 販売価格

76,780円 (税込)

開発者ご紹介



【プロフィール】

中村 正善

昭和33年生まれ。

(株)JINRIKI代表取締役社長。

観光庁ユニバーサルツーリズム検討会委員、視覚障害者文化振興協会理事等を歴任。日本発明大賞、福祉機器コンテスト最優秀賞など受賞多数。

兄弟が車いす利用者だったこともあり、幼少期から車いすの走破性の課題を把握。

会社勤務を経て、長野県上高地のコンサルタントとして、来場者増に向けて、車いすの走破性向上に可能性を見出していたところ、2011年3月の東日本大震災で、多くの車いす利用者をはじめとした要配慮者及び介助者・ご家族が避難できなかった事実を知り、車いすの走破性向上が命を救うきっかけになると確信。2年の歳月を経て「JINRIKI」を開発、商品化に至る。

開発者メッセージ

これまで車いす利用者にとって、災害時の避難やバリアフリー以外の外出・旅行をあきらめていた方が少なくありません。

しかし、JINRIKIを使用すればそれが可能となります。

その影響は車いす利用者のみならず、その家族や友人知人、さらには観光事業者や公共施設等の受け入れ事業者にとっても多くのメリットを生み出すことになると思っています。

特に昨今頻発する大災害においては、すべての人の素早い避難の有効性が連日メディアでも報道されており、取り残され諦めざるをえなかった要配慮者の命を救うこととなります。

ぜひ、まずは使ってみて実感してください。

JINRIKI®QUICK3は、(株)JINRIKIが所有する特許の使用許諾を得て(株)名鉄百貨店が、製造・販売を担っています。

「JINRIKI®QUICK3」は、名古屋鉄道グループの**名鉄百貨店**が製造・販売元となり、トヨタ自動車系列の**中央発條**がOEM先として製造を担います。



meitetsu
名鉄百貨店

【株式会社名鉄百貨店】

創業 1952年12月

資本金 1億円

資本構成 名古屋鉄道100%

名古屋駅で百貨店営業
不動産業、駐車場事業、外商事業



【中央発條株式会社】

創業 1925年3月

資本金 108億37百万円

資本構成 トヨタ自動車24.11%他

自動車用ばね・ケーブル大手メーカー
トヨタ自動車初めカーメーカー全般
建築用部材、医療福祉機器、鉄道用部品製造

【商品や販売に関するお問合せ先】 株式会社名鉄百貨店 営業企画室

Tel: 052-585-2410

Mail: jinriki@mds.meitetsu.co.jp

担当: 諸岡、横井